

上田市立塩川小学校

- (1) 学級数 13 クラス
- (2) 児童数 男子 135 名 女子 111 名 計 246 名
- (3) 職員数 23 名
- (4) 学校紹介

<http://www.school.umic.jp/mtshiogawa/>



塩川小学校は、開校 130 余年の歴史と伝統ある学校である。目の前のおいせ山への全校遠足、マラソン大会、たこあげ週間、塩川川清掃、そり・スケート・スキー教室、児童会祭り他、塩川の自然とふれあいながら子どもたちが生き生きと活躍できる行事を大切にしている。

本校の教育目標は、「知識をきわめ 意気をねり ゆかしき心を身につける子ども」であり、校歌の一節から採られている。この教育目標に向け、次のような子どもたちの姿の具現を目指している。

- ① 自分らしさを発揮できる子ども
- ② 正しい判断力と行動力をもった子ども
- ③ 思いやりをもって共に伸びようとする子ども
- ④ ふるさとの文化と自然を大切にする子ども

具現のために本校では、生活科、総合的な学習の時間を「塩川タイム」と位置づけ、学校一丸となって取り組んでいる。開校式と発表会が行われ、地域の講師の方々、保護者のみなさんを含めて約 200 人が学校を訪れ、子どもたちの学びを応援し見守っている。

(5) 大会テーマの受け止めと研究のねらい



本校では、重点研究テーマを「一人ひとりの子が課題をもって意欲的に取り組むための指導 ～ 一人ひとりの学びに視点をあてた教育

を目指して～」とし、実感を伴う学習のために体験的な活動を柱とし、モノ・人・自分と対話する問題解決的な学習を進めている。

前述のように本校では、生活科、総合的な学習の時間を「塩川タイム」とし、次の 4 つの点、

- ① 基礎基本の確実な定着と学ぶ楽しさの実感
- ② 地域に学び、自分の生き方を考える学習
- ③ 豊かな人間性の育成
- ④ コミュニケーション能力の育成

を考え、教科・道徳・特別活動と相互補完しながら、分ける授業を通して一人ひとりの確かな学びを目指している。そのために次の 3 つの視点から授業研究に取り組んでいる。

視点 1) 基礎基本を大切に、つける力の明確化

視点 2) 問題解決的な学習と体験的な学習による授業実践

視点 3) 一人ひとりの学びに視点をあてた評価

一人ひとりが主人公となり、自ら学ぶ姿を期待している。

公開を予定している総合的な学習の時間では、研究テーマを受け「一人ひとりが課題をもち、主体的に追究する総合的な学習の時間のあり方～切実な問題設定と、問題解決に向かう課題意識のもたせ方～」とすえた。上記の研究への取り組みから、本校では課題把握の場面を大切に考えている。そのとき視聴覚機器を使うことによって子どもたちの心を揺さぶり、子どもたちが課題にむけて見通しをもって追究していけるような有効的使用を試みている。

また、活動の様子をデジタルカメラで記録し、活動の流れを教室に掲示し、活動のまとめにそのデータを活用し、学年に応じ写真を貼ったりパソコンでまとめたりすることを考えている。



(6) 日常的な活用

○システムの概要

現在、パソコンはコンピューター室にデスクトップ型が40台配置され、上田のメディアセンターとつながっている。そのため有害サイトへのアクセスが遮断され、ウィルスを除去してくれるなど、安心して子どもたちにインターネットへの接続を任せられる環境にある。校内は、LANが構築されているので、どの教室にいてもネットワークにつながることができる。

○デジタルカメラ、デジタルビデオカメラ

デジタルカメラ、デジタルビデオカメラは、行事の記録や授業の記録に活用範囲は広い。台数が少ないため教師が使用する機会が多いが、社会科の取材活動、児童会の活動などで児童が活用する機会も増えてきている。ビデオカメラを使い番組作りも試みている。また、授業の振り返りに授業の様子を流すときには、その効果は大きなものがあると感じている。

○プロジェクター、実物投影機

プロジェクター4台、実物投影機1台が配置されている。プロジェクターは、あらゆる場面で活躍している。

パソコンとつないだ場合には、プレゼンテーションや子どもたちに紹介したいサイトを映し出すなど、授業や校長講話、児童会発表などで活用している。

ビデオカメラとつないだ場合は、記録したものを流すことが多いが、師範の様子や児童の活動の様子、作品をその

まま映し出すことで学級全体への紹介にも活用している。

実物投影機は、子どもたちの発表物や写真を映し出したり、理科の教材を拡大したりして使用している。また、CDラジカセで、効果的BGMを流したり、パソコンでNHKの放送ライブラリーを視聴したりすることも行っている。

(7) 研究を推進してきたの現時点での課題

昨年度もいかに切実感をもって課題意識をもつことができるか、研究してきた。その中で、課題意識をしっかりとさせるために、視聴覚機器は有効であると考えている。自分たちの活動の様子をビデオに撮って客観的に振り返ることにより、自分の追究してきた課題について再度振り返り修正したり更に深めたりするのに良い機会となった。また、ビデオを使い外部の方から評価を得ることで、自分の問題意識や願いをふくらめるきっかけともなった。

本年度、塩川タイム（総合的な学習の時間）研究グループでは、3年生が単元「ぼくたちわたしたちのラビ」において、うさぎ（ラビ）との交流を中心に、子どもたちの課題解決的学習のあり方を研究している。ビデオで今までの活動の様子やラビの様子を振り返ったり、ハローアニマルの方とビデオレターを交換したりするなど視聴覚機器の活用を模索している。課題として、見る視点が定まらない子には、映像が流れていってしまう点が挙げられる。いかに、見る視点を学級で共通理解するか、その指導の方法を追究したい。



<塩川タイムでの発表風景>